

第73回 全国産業安全衛生大会 安全管理活動分科会(第1会場)
パネルディスカッション「海外進出時における安全衛生活動の進め方」に関する
アンケート結果(平成 26 年 10 月 30 日時点)

中央労働災害防止協会
技術支援部国際センター

1 日時

平成 26 年 10 月 24 日(金)14:00-15:30

2 場所

広島国際会議場 ヒマワリ

3 パネラー

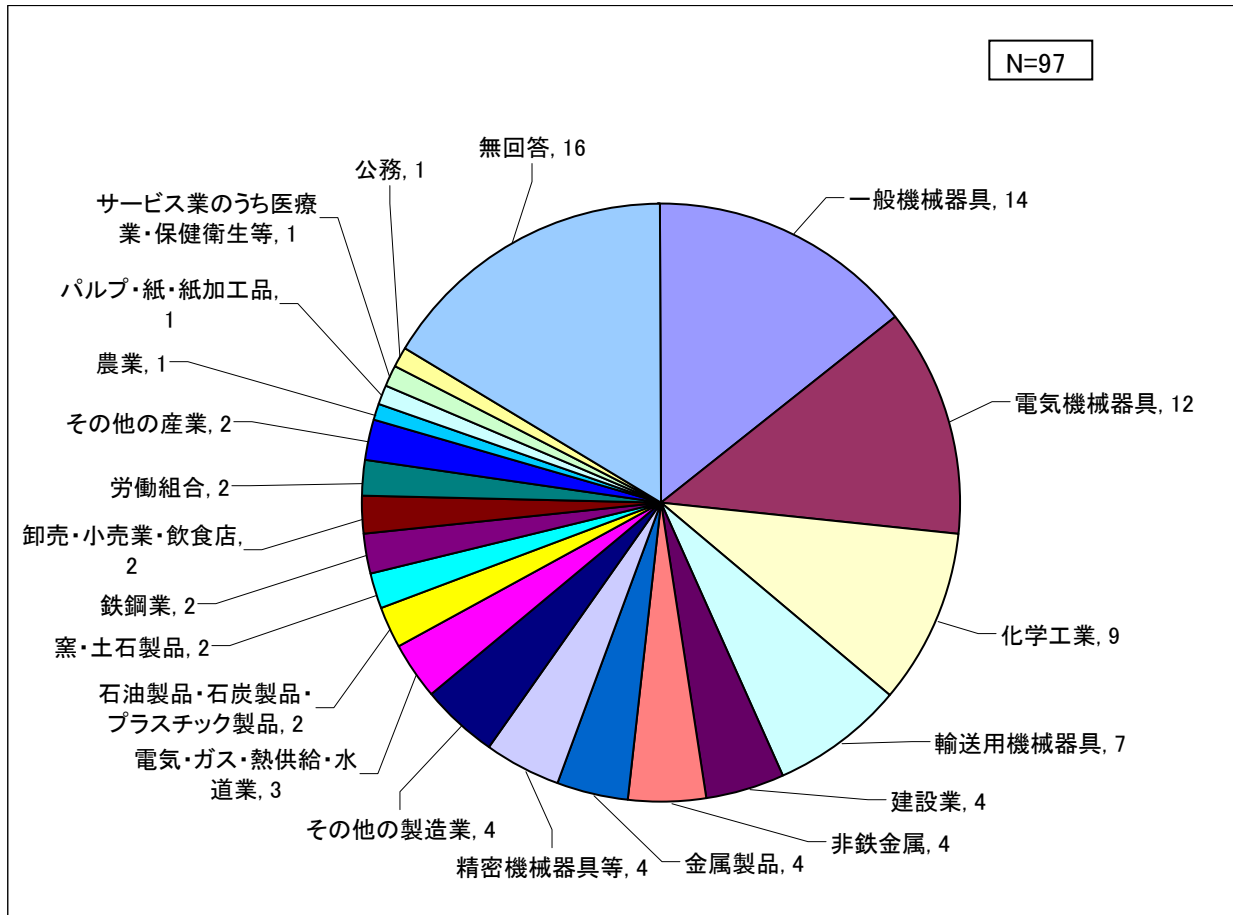
- | | | |
|------------|---|---------|
| ○日産自動車(株) | 人事本部 グローバル人財開発部
安全健康管理室 主担 | 高橋 智則 様 |
| ○ブラザー工業(株) | 人事部 安全防災グループ | 山口 研悟 様 |
| ○三菱重工業(株) | エネルギー・環境トメイン 経営管理総括部
安全管理部 プロジェクト安全管理グループ長 | 伊藤 禎夫 様 |

4 アンケート回答数

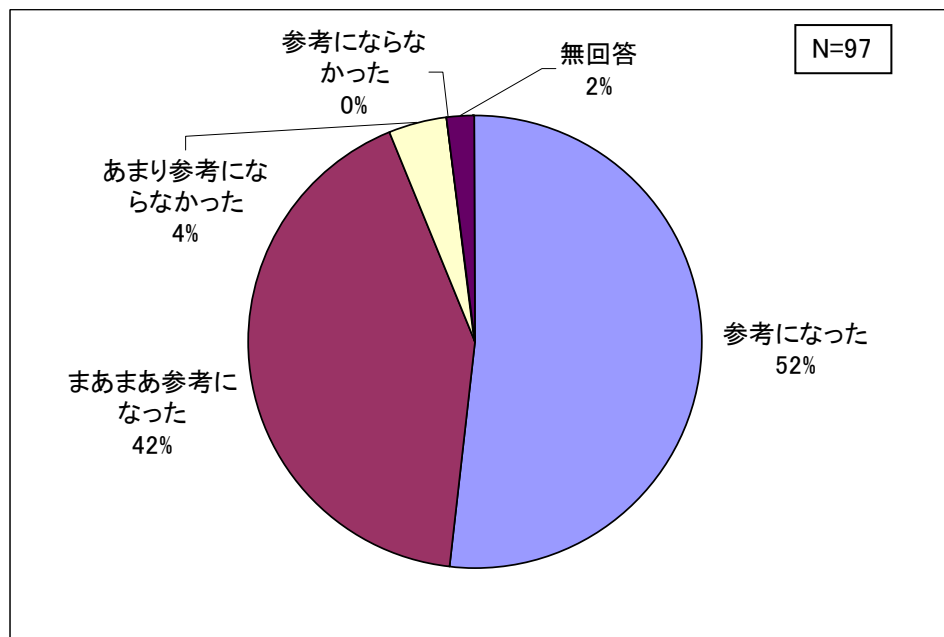
97

- 注)1 無記名記入方式(業種のみ)、会場参加者に依頼(任意)し、会場で回収しました。
注)2 本パネルディスカッションに引き続き、JICA 技術協カプロジェクトによる本邦研修の
研修員による中国の職業病予防治療対策に関する特別報告がありましたが、
本アンケートは本パネルディスカッションを対象に行いました。
注)3 質問 2 および質問 4 の回答内容を記述しました。

アンケートを回答いただいた方の業種



質問1 本パネルディスカッションについてご意見をお聞かせください。



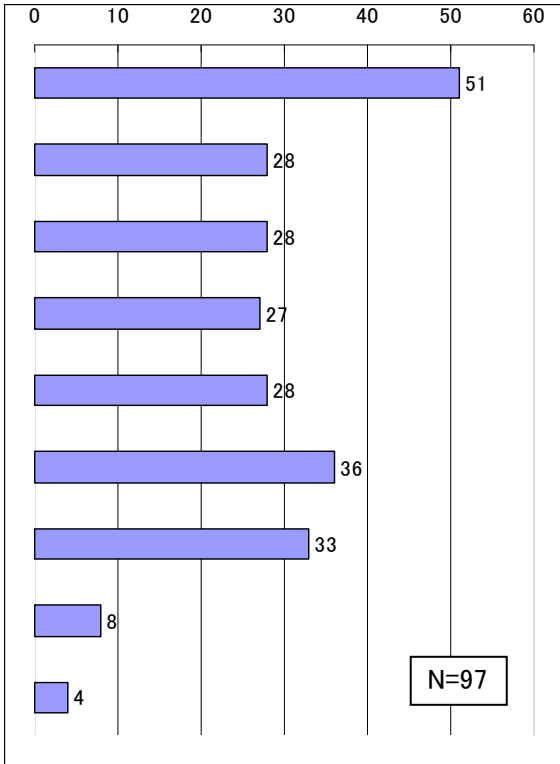
質問2 各パネリストの説明やその他ディスカッションで、ご興味をもった点がありましたら、お聞かせください。

- ブラザー工業の報告には共感した。(苦労がよく伝わった)
- 日産自動車:取り組み事例の紹介。
- 日産自動車:まとめて「優秀な人材の流出」の意味がわからなかった。三菱:すばらしい。ブラザー:ヒューマンな取り組み。
- ブラザー工業の発表がイメージし易く参考になりました。
- 三菱重工業のグローバル展開。逆に発展途上国だけでなく、いいとこ取りがグローバルから入手できたことがわかった。
- 各社が SES、OSHMS、OSHA(注:米国労働安全衛生法体系)等の共通のシステムを運用して安全管理に取り組んでいる。
- Total system 導入という意味で参考になった。平時の安全衛生管理について話を聞いたかった(新設、統一化など特定の話が中心だったので)。
- 内容が私にとっては予想範囲内のものであり、参考にはならなかったが、どこも苦労されているということがわかった。
- ブラザー工業の山口氏の「一杯のミルク」の話。三菱重工業の伊藤氏の吊り荷作業をしているときにどこまで立入禁止にするか、という話。
- 一杯のミルク。OSHA によるマネジメントシステム作成。なお、海外従業員の教育などもっと基本的なことが知りたかったが、期待外れだった。
- 安全作業標準書のフォーマットを日本でも海外でも同じ物を使用しているのがわかりやすかった。(言葉は違うが)
- 三菱重工業の海外安全管理基準の統一。
- 安全に関しては日本が上で海外を指導する位置づけと勝手に思っていたが、そうでもない面があること。
- 三菱重工業の伊藤氏、ブラザー工業の山口氏のプレゼンが大変参考になった。
- 日産自動車のポリシーとアライアンス、共通の KPI の明示という点。
- 現地法に基づいた管理を実施するにはどの順ですべきか、という点。
- 統一 OSHMS の必要性の有無、監査と表彰の有効性。
- 文化の違い、言葉の壁、海外で安全活動を進める大変さが良くわかりました。画期的な解決策はなく、相手の立場にたった教育が大切というのはその通りだと思います。
- 統一的なシステムが良いか、現地のシステムを生かしたほうが良いか参考になりました。
- 安全管理の活動が参考になり、弊社に持ち帰り検討したい。
- 山口氏の話が良かった。
- 本社として重要な機能は監査。ただし現地安全に直接寄与するのは表彰などが有効という点。
- 三菱重工業の海外工事における OSHA の要求事項という点。
- 海外査察、教育者のテストと認証。
- 山口氏のミルクの話が良かった。
- 海外拠点での安全活動の実例。
- 一杯のミルク、「at your side」という言葉が、心に沁みました。ありがとうございました。
- 伊藤氏の海外作業について:基準の違い、日本が遅れている? TOP はどこ? 客先の基準が TOP? という点
- 海外は一つ一つ始めから教育する必要があること。標準化と現地特徴を理解対応する必要があるという点。
- 特に三菱重工業の発表は参考になりました。

- 「at your side」という言葉。一方的な押し付けになるので逆効果。相手方の能力等に応じた対応。急ぐのであれば総合的なフォローの仕掛けが必要。
- 先ず日本でやっていることを海外拠点で導入してみることに。
- 海外における安全活動。
- ミルクを飲ませる話が印象に残りました。日本のやり方を基本として強硬に押し付けず、導入することの大切さと難しさが判りました。
- 海外における安全のレベルはどのくらいなのか。逆に日本に輸入したい安全の活動や考え方はあったか、という点。
- 日本のやり方と同じ方法では海外では浸透(理解)されない部分の、苦労と工夫点は参考になる。この具体的な取り組み・事例をどんどん紹介していただくとありがたいです。
- 一杯のミルクは思い当たることがあるので相手に合わず事の大切さを再確認しました。
- 海外での具体的な改善事例。
- 一杯のミルクの話はなるほどな、と感じました。
- 安全管理のシステムの構築。
- 海外進出の際如何に統一的な在在規律を作れるか、という点。
- グローバルな管理システムの導入。メリット・デメリット。
- 国ごとの問題点の特徴や注意点等があれば聞きたい。
- 危険度を点数化して評価し改善を図ることは有効であることが判った。
- 日産自動車・ブラザー工業の海外工場における安全教育の進め方。教育の本質「at your side」。
- 日産自動車の安全プログラムの数に驚いたが、海外の安全監査等ヘルメットを被っていなかったのでは何の安全活動をやっているのかわからなかった。(注:現場監査時はヘルメット着用、パトロール時は帽子形状のヘルメットは着用との説明はあり)
- ブラザー工業の山口氏の一杯のミルク、相手の立場に立った教育でないという意味が薄れるという点。三菱重工業の伊藤氏、使える標準をまず作る(システムのあり方、メリット、デメリット)。
- 講演時間がなく、全体の流れはわかったが、詳細の活動の苦労した点が少なかつた(資料の配布があれば良いのだが)。
- 山口氏の「一杯のミルク」により、改めて受け手の目線で話をする必要性、大切さを感じた。
- 日産自動車における展開の仕方、具体的取組方法、説明。
- 業種が違うためか考え方が違い、答えが見えなかつた。
- 安全、表彰の大切さと効果。
- 「海外」と一言と言っても進出先の国によって日本よりも意識が遅れている国、日本よりも意識が高い国があることがよく分かつた。
- 海外情報に関して興味があつた。
- 海外拠点の安全管理に監査は必要とのご意見があつたが、具体的な進め方をもっと知りたい。
- OSHA の考え方。
- 海外・国内の事業所毎に異なる安全文化の違いが分かつた。当社の多くの事業場毎に安全への取り組みは異なるので、統一性が重要ということが分かつた。
- 全世界の統一的な安全衛生ルールを作るより、監査を行い適宜教育を行うことの重要性。全社として社長がグローバルに安全衛生表明をすることの大切さ。
- グローバルな視点からの安全衛生システムの構築と運用。
- 苦労話。
- 「at your side」という言葉。
- 本社でベースは確保するが現地の声も有効に反映しているという点。
- 国により文化などが違うこと。
- 海外での安全水準向上施策、日本(本社)からのガバナンス。

質問3 今後、中災防として取り組むことが必要なものは何でしょうか。(複数回答)

1. 中災防 HP 等による海外関係情報の提供(日本語で、関係法令・事例・データ等)
2. 本パネルディスカッション等の情報交流会の開催(小規模のセミナー形式を含む)
3. 海外進出に当たっての企業担当者向けの日本国内での相談・コンサルタント
4. 日本国内での日本人スタッフ向けの派遣前研修や現地従業員の本邦受入れ研修への支援
5. 進出先工場等での安全指導・安全技術サービス(作業環境管理・作業管理・健康管理)
6. 進出先での現地従業員向けの研修(KYT・5S、その他安全管理、安全衛生指導者養成)
7. 進出先従業員研修又は本邦受入れ研修時に使用するテキスト・教材の作成等(英語等)
8. 進出先の関係機関(同業他社、政府・団体)との交流支援(交流会開催・左機関紹介等)
9. その他



9.その他

- ・派遣前の教育に使用しうる DVD の作成・配付
- ・各国の法令のダイジェスト版の発行
- ・地震の少ない国への転倒防止、落下防止の必要性についての教育資料の作成
- ・現地法令に関する情報の提供

質問4 その他、ご意見・ご感想がありましたら自由にお書きください。

- JISHA は廃止し中災防は国際標準の統一にリーダーシップを発揮すべきだ。
- 座長の話が少しくどい。
- 日本と諸外国の法律の違いがあり、同意識では統一できないと考えています。各現地で対応が必要だと思う。
- 現地スタッフの安全意識の向上。現地従業員で危険なことを危険と感ずるためには、どうしたら良いか？
- 各社の説明が長すぎてパネルディスカッションの時間が十分に取れていない。
- 我が社も海外では優秀な人材が流れてしまったりして、日産でもあるそうなので、流出させない、されないための方策を日本としても考え実行していかなければいけないのではないかと感じた。
- パネラーと情報交換できるパーティ等があると尚良い。
- 淡々とパワーポイントに従って説明を受けるよりも、この様なパネルディスカッション形式のほうが記憶に残るので、良い企画であると思います。
- とても参考になりました。
- 中国の職業病予防の講話が良い。次回インドの話を知りたい。
- 監査表彰制度は取り入れたい。
- グローバル対応についてさらにわかり易い DB (Web) の構成を希望する。
- 海外進出に関して自分一人でやらなければなりません。人材不足が深刻です。打開策は有りませんか？
- 工場など自社での経験を聴いて参考になりました。フィールドサービスや事務所の安全活動についても聞けると助かります。
- 日本と海外の違いをもう少し詳しく。標準についてももう少し詳しく。
- 弊社でも OSHMS を取り入れ安全活動に力を入れているが、安全活動を行うというより安全会議の資料を作るための活動になっており、実際の安全活動がおろそかになっている。新人社員向けの情報交流会等を行い、現場力、意識向上を行いたい。
- 安全教育ツールの (DVD 等) 実演があったら良いのでは。
- 海外での安全衛生活動は色々な面で進め方が難しいと感じています。今回のお話では完成形の話が中心であり、それはそれなりに有用な情報だと思いますが、もっと泥臭い苦労された話をお伺いしたかったと思います。
- 今後はこの全国大会でパネルディスカッション形式を増やして欲しい。安全担当が悩む今日のテーマ、グローバルとか安全衛生委員会の活性化、新人社員時、管理者になる時以外の安全教育のやり方、等。
- 漠然と海外ではなく、国地域を絞ってテーマ、対象を明確にしたプログラムを組むと良いと思う。中災防のグローバル化が必要。そこが一番遅れているのではないのでしょうか？
- 参考になった。
- 今回の 3 社は大変規模の大きな企業でしたが、もう少し小規模のグローバルの取り組み状況を知りたい。
- 海外に進出した場合の安全指導により海外の企業と合併した時の安全共有をどうするのか、今後聞きたい。